

平城宮跡歴史公園歴史体験学習館の整備に関する検討委員会（第9回） 議事概要

日 時：令和3年8月3日（火） 9：30～11：30

場 所：奈良県文化会館 多目的室

出席者：朝廣 佳子氏、石原 昌伸氏、魚島 純一氏、内田 和伸氏、北口 照美氏、
来村 多加史氏、清川 清氏、正司 哲朗氏、染川 香澄氏、立石 堅志氏、
中井 将胤氏、中村 孝氏、馬場 基氏、増井 正哉氏、山下 進二氏

概 要：多くの利害関係者がおられることにより、委員の率直な発言に支障が生じる恐れがあるため、平城宮跡歴史公園歴史体験学習館の整備に関する検討委員会運営要領第4条に基づき、非公開で開催。

県より、別添資料により検討状況を説明。委員からの主な発言は以下のとおり。

議事（1）今年度スケジュールについて

- ・コンテンツ基本計画等については、本検討委員会以外にも広く意見を伺う機会を設けていただきたい。
- ・文化財部局と十分に調整の上、具体的な発掘調査の範囲やスケジュールを組み込むこと。

議事（2）コンテンツ基本計画等（素案）について

- ・歴史体験学習館は、主に「平城京」に関する展示・体験を行うという点において、主に「平城宮」に関する展示を行う平城宮いざない館をはじめとする既存施設との区別とすることで概ね了解。
- ・平城京の広さを実感しながら、現代と奈良時代のつながりを感じられる平城京ならではの体験があるとよい。
- ・五感を大切に体験を提供できるとよい。一般的な映像の提供だけにとどまらず、実際にものに触れながら、当時の風景を見られるなどの工夫が重要と考える。
- ・コンテンツの更新スパンが短くなる傾向にある。維持管理費や更新費も踏まえて、事業を検討する必要がある。
- ・AIに施設利用者との会話を学習させれば、ひとつのコンテンツがアップデートされて充実する。
- ・施設をつくり込み過ぎず、柔軟に変更できる空間がある計画がよい。
- ・歴史体験学習館へ来られる方の健康状態や精神状態をシミュレーションして、夏だったら涼しいエントランスを用意するなど、コンテンツにもこのような気配りが必要である。
- ・今回の委員会で、事務局からコンテンツの表現手法について提案があった。次回の委員会では、メインとなるコンテンツの内容（ストーリー）について提案できるよう進めていただきたい。
- ・コンテンツの内容検討にあたっては、委員へ個別に意見を求めるワーキングの場を設けるなど、委員の意見聴取のプロセスを丁寧に経ていただきたい。
- ・過年度から意見をしていたことだが、学芸員の要否も含めて、県の検討体制の充実を望む。

議事（3）建築基本計画方針について

① 建築基本計画方針

- ・正倉院宝物の再現模造品の展示環境を実現するため校倉式意匠化建物は非木造を前提に検討すること、大宮通りへの沿道景観に配慮し施設配置をさらに北側へセットバックすることは概ね了解。
- ・セットバックにあたり、平城宮いざない館側をどのように整備するのか十分な調整が必要。
- ・奈良時代、倉にあらゆる知識や資料を蓄積した。そのような場の再現を目指して校倉式意匠化建物を計画したわけではないが、造るのであれば建物として、広場として、意味を持たせて設計することが大切。

② 世界遺産の遺産影響評価（HIA）の分析手法

- ・令和3年度の詳細分析の進め方については概ね了解。
- ・HIAは事業を行うための単なる基準として捉えるのではなく、平城宮跡にふさわしい事業であることを検証する自己点検のプロセスとして活用いただきたい。その視点では、本事業の各段階でHIAを行

うプロセスは評価したい。

- 発掘調査は、設計に調査結果を反映できる余裕のある時期に実施すること。地下遺構に対する保護措置のためだけではなく、設計に活用していくことも含め検討してもらいたい。